



シニアクラブ会長挨拶



新年明けましておめでとうございます。

皆さま方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は2023年度、調布JCシニアクラブ会長を仰せつかりました、新國 政和（にいくに まさかず）と申します。

梶原良介前シニアクラブ会長より大切なバトンを引き継ぎ、アフターコロナ後の世界と同時に本年より微力ながらシニアクラブを2年間けん引させて頂きまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度は長谷理事長の強いリーダーシップの元、新しいムーブメントが起こる予感があります。その流れを汲みとり、私たちシニアクラブも現役の最大の応援団として全面バックアップをさせて頂き所存です。そして、コロナ後においてはシニアクラブとしても「連携と団結」を強め、地域経済人としての組織力の向上、そしてこのまちの更なる活性化、発展を目指して取り組んでまいります。

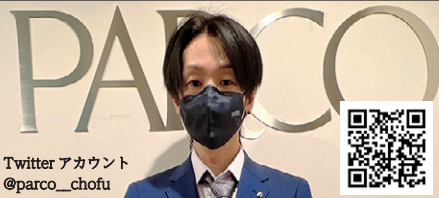
最後に皆さま方におかれましては、益々シニアクラブ事業へのご参加と現役メンバーへの多大なご支援、ご協力の程、何卒お願い申し上げます。の挨拶とさせていただきます。

2023年度 調布青年会議所 シニアクラブ会長
新國 政和

あすの調布 1



内野幸治税理士事務所



Twitter アカウント
@parco_chofu



たのしいに、一所懸命。
おとなが真剣にあそぶサークルです。

おとなが本気であそぶと、
かっこいい。



SHINSEI

商業印刷全般 あなたの繁盛お手伝いします！
042-444-0988



PaoCoffee

100gから買えます♪

おいしいコーヒー豆あります
煎りたてコーヒー専門店パオコーヒー

調布市西つつじヶ丘3-15-2 日祝お休み 10:00~19:00



大衆深夜食堂 すみすみ



理事長挨拶

新年あけましておめでとうございます。

公益社団法人調布青年会議所（以下、調布JC）のメンバーの皆様、また同シニアクラブ先輩諸兄姉の皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

2023年度理事長職をお預かりすることになりました 長谷公人です。

「強くあれ！ Action! この調布（まち）のその先へ！！」

新型コロナウイルス感染症の蔓延から3年が経とうとしており、With コロナの時代となりました。時間・場所の価値観が一変した現在において、調布JCも古き良き伝統は残しながら、時代に合った組織へと生まれ変わる必要があると考えます。変化には信念が必要です。「調布市及び周辺地域の正しい発展を願う」という創立宣言文記載の言葉を胸に、メンバー全員が強い気持ちをもって運動展開して参ります。

これまで52年間に亘り紡いでいただいた調布JCという組織を、未来に向かってより強く発展させることをお誓い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

1年間よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人調布青年会議所
第53代理事長 長谷公人

鈴実園

お庭のお手入れお任せください
まごころを庭に

有限会社 山城企画

お金のご相談は全て山城企画まで



強くあれ！

Action! この調布(まち)のその先へ！

「笑って死ぬこと」
これが私の人生の目標です。

人生に後悔を残さず、生涯を振り返った時に笑顔で「良い人生だった」と思える最期を迎えたい。
そう考えています。

笑って死ぬため、良い人生にするために必要なものは何か。
家族・友人・仕事・趣味・家・地域・環境、その他。
理想の最期を迎えるためには、様々な要素がありどれも欠かすことが出来ません。

人生を後悔しないために、人生における様々な要素を含めて40歳ではどのような自分になっていたのか。
それを考え30歳の時に立てた10年後の目標は、「まち」で必要とされる人になる」でした。

それまでの私は、少年サッカーという世界で調布の「まち」に貢献してきたと自負していました。
しかし、少年サッカーという限られた世界だけでなく、一つ高い次元で、生まれ育ち暮らしている調布の「まち」に必要とされる人財になることで、その後の人生がより豊かになると考えたのです。

そして、
それを実現する組織として 公益社団法人調布青年会議所 への入会を決定しました。

6年前の2017年1月。
グリーンホール小ホールで、「調布というまちに貢献したい」「多くの人と関わりをもちたい」と多くの方々の前で話したのを昨日のように覚えています。

入会して6年。
調布の「まち」がどのような「まち」なのか、時代は何を求めているのか、どのような課題があるのかをメンバーと一緒に議論し、事業構築の楽しさ・難しさに一喜一憂しながら進進してまいりました。
時には新しいことにチャレンジし、一人では実現出来ないような事業を仲間と共に作り上げ、時には失敗し、お叱りを受け反省に耽ることもありました。
理不尽なこと、自分の意に反すること、納得出来ないこと、それらを受け入れなければならないときも多々ありました。挫折や反感を覚えることもありました。
しかし、そこから逃げずに全てを経験として成長出来たのは、自分がどうなりたいか、自分がどうしたいのか、その信念を強く持っていたからだと思っています。

「強くあること」
青年会議所に入会し、それが己の成長には欠かせないものだと思えてくれました。

信念を強くもっていることで、己の弱さを知ることが出来、自分に足りない部分が見え、補うことができ、成長することが出来たのです。
だからこそ、同志であるメンバーに伝えたいことがあります。

調布のJAYCEEよ、強くあれ！

この調布青年会議所を脈々と繋いでいただいた先輩諸兄姉の皆様には感謝の言葉しかありません。
調布の「まち」が明るく豊かな社会になるために、私たちが生まれるずっと前から青年会議所運動を展開していただいたことで、今の調布の「まち」があり、今の私があります。
私は調布の「まち」が大好きです。
調布で生まれ育ち、結婚し、この「まち」で子どもを育てています。
この「まち」が魅力溢れるものになった一助に調布青年会議所があると信じています。
この素晴らしい組織を次世代に繋いでいく使命が現役時代の私たちにあります。
今年度、調布青年会議所は12名の卒業生を輩出する予定です。メンバーが減少することはメンバーの成長の機会を損なうこと、調布のまちを輝かせる人材が減少することを意味します。
これからの調布青年会議所が逞しい組織でいられるために、私自身が会員拡大の先頭に立ちメンバーの増強に全力を注いで参ります。

調布青年会議所よ、強くあれ！

「強さ」を持って、1年間運動展開して参りましょう！

青年会議所とは
青年会議所では、「明るい豊かな社会をつくる」ことを最上位目標に定めています。
「明るい豊かな社会」とは、抽象的で人によって考え方は異なります。
私が考える「明るい豊かな社会」とは、「笑顔が溢れる社会」です。

笑顔は人の心を開きます
笑顔は人を笑顔にします
笑顔は気持ち明るくします
笑顔の人が増えれば社会全体が明るくなります

私たちの調布青年会議所宣言の中に、「調布(ふるさと)の誇りとなるべく」の一文があります。
明るい豊かな社会を築き上げ、調布青年会議所が調布(ふるさと)の誇りになる。
それは即ち、調布青年会議所が調布に笑顔を生み出す源泉になることが必要であると考えます。

調布には、多摩川をはじめとする武蔵野の自然が残り、文化施設、商業施設、スポーツ施設など、人が集まる拠点多くあります。
また、東京都のほぼ中央に立地し、中央自動車道や京王電鉄が横切るなど交通網も発達しとても魅力的なまちであります。

生まれ育ったこの素晴らしい調布の「まち」が笑顔で溢れるまちになるよう、私たち一人ひとりがお互いを認め合い、思いやりを持ち、笑顔で運動展開して参ります。

公益社団法人として

調布青年会議所は公益社団法人の法人格を有する法人です。
公益法人とは、公益の増進を図ることを目的として法人の設立理念に則って活動する民間の法人のことです。志ある人の集まりである公益社団法人の私たちは、個人の価値観が多様化し、社会のニーズも多岐にわたる現代において、社会のニーズを満たし、課題に対応し社会を支える重要な役割を担っています。
創立宣言文の通り、私たちの運動の成果を、調布市を中心とする地域社会におよぼし、世界平和と繁栄に寄与してまいります。

会員拡大

青年会議所の魅力は、何となくも様々なメンバーに出会えることです。社会人となり住む世界が固定化されてくると、出会う人は同じ業界・同じ趣味・同じ年代・同じ価値観の人になりがちです。しかし、青年会議所には、多種多様な背景をもった人たちが集まっています。そのため、時には意見が衝突することもあります。だからこそ自分自身を見直し、成長する機会があるので。
私も入会初年度は、メンバーの行動力や想像を超える発想などに戸惑うことばかりでしたが、そうしたメンバーの考えを受け入れることで考え方が柔軟になり、世界が広がり、成長することが出来ました。新入会員が切磋琢磨しながら調布のまちを知る中で、それぞれの個性を発揮し、調布のまちを輝かせていく。そうした循環をこれからも続けていく使命が私たち調布青年会議所にはあります。
今年度、調布青年会議所は12名の卒業生を輩出する予定です。メンバーが減少することはメンバーの成長の機会を損なうこと、調布のまちを輝かせる人材が減少することを意味します。
これからの調布青年会議所が逞しい組織でいられるために、私自身が会員拡大の先頭に立ちメンバーの増強に全力を注いで参ります。

指導力の開発

自分の得意な分野・自分の好きな世界だけで暮らしていても井の中の蛙で自分を高めることは出来ません。私にとってそれに気付かせてくれたのが青年会議所です。
青年会議所という組織は、国連が認める世界に広がる組織で、育ち、職業、性別、考え、年齢、生活の違う様々な人が所属しています。だからこそ、相手を知り合い、意見を交わしあい、時にぶつかり合い、一人一人が自分を磨いていけるのです。見ていなかったものに目を向け、背けていたものに関心を寄せ、気付いていなかったものを学び、対立するものを受け入れることで人として成長する。そのような組織です。しかし公益法人である私たちが、その良さを組織内だけで終わらせてしまっただけではありません。市民の皆様に対し、そのような機会を提供してまいります。

また、メンバーの成長も必要不可欠です。
メンバーの成長には青年会議所のスケールの大きさを活用します。私は入会1年目のサマーコンファレンスで当時の総理大臣と日本青年会議所の会頭が対談をしているのを生で見聞きし、青年会議所のスケールの大きさに圧倒されました。各種会員大会では、様々なフォーラムや交流が行われ、多方面で刺激を受けることが出来ます。そうした機会に触れることは、社会人として、人として大変貴重な機会であり、人間関係の場であると考えます。これらを活用しメンバーの指導力開発に力を入れてまいります。
青年会議所は学び舎とも呼ばれます。調布青年会議所のメンバーは、青年だからこそ持っている吸収力で、まちに溢れる人間となっいきます。

青少年の健全育成

私のライフワークにサッカー指導があります。指導者として20年が経ちますが、私の選手育成のキーワードは変わりません。それは、「自分で考えて行動する」です。大量消費大量生産の時代には、「右に倣え」の考え方も通用しませんでした。しかし、変化の激しい現代に、言われたことや他人と同じことをしていても取り残されるだけです。これからの時代は、様々な情報をインプットし、その取捨選択を自分で行い、行動に移していくことが求められるものと確信しています。大人は、答えを用意するのではなく、答えを導き出せるようにサポートする。そうすることで、自ら考え行動する力が付くものです。2023年、調布青年会議所はその機会提供を青少年に対し行います。

また、調布青年会議所の伝統事業にわんぱく相撲調布場所があります。36回の歴史を数えるこの大会は、調布青年会議所の看板ともなっている事業です。小学生力士が自分の身体一つで相手にぶつかり、自分より大きい相手や重たい相手、速い相手と土俵の上で勝負をします。

その場に立つ勇氣や心の葛藤、緊張から解放されたときの表情は、見る人の心を動かす魅力があります。成長の過程で絶対に必要な喜怒哀楽を表現する場として、今年もメンバー一同全力で開催することを誓います。

まちの未来

- ・手製の筏を浮かべて遊んだ野川、
- ・ステートボードに座る先輩を自転車で引っ張った多摩川のサイクリングロード、
- ・カプトムン探しに夢になったカニ山・深大寺、
- ・父親の運転で旅行に出掛け、今では家族を乗せて走るようになった中央高速、
- ・汗を流しながら人垣をかき分けた火花大会、
- ・試験勉強のために通った図書館、
- ・スタジアムが出来る前から通い続けている調布基地跡地運動場、

調布のまちで生まれ育ち、調布のまちで生活しているからこそ、調布のことは知っている。以前の私はそのように考えていました。しかし、それは自分の目に見える範囲のものだけでした。

- ・少子高齢化や温暖化に対応するためのまちの仕組みや暮らしを守るもの、
- ・文化施設・スポーツ施設を活用した誰もが楽しめる場、
- ・多様性を認め、誰もが過ごしやすい空間、
- ・調布にしかない歴史や文化財の発信、
- ・産業や観光の振興と暮らしやすい街の整備と豊かな自然の保全のバランス、

調布青年会議所に入り多くの人と触れ合うことで、私たちの「まち」が笑顔あふれる明るい豊かな社会になるために、まだまだ多くの課題が残っていることを知りました。
「まち」の未来を見据え、私たち調布青年会議所だからこそ出来る運動展開を仲間と共に行ってまいります。

40歳までの青年だからこそ見えるものがあります。
40歳までの青年だから変えられるものがあります。
40歳までの青年だからこそ出来るものがあります。

だからこそ、胸を張って運動展開してまいります。

調布青年会議所よ、調布の未来のために強くあれ！
調布のJAYCEEよ、強くあれ！



理事役員挨拶



監事 林 慎一郎

新年明けましておめでとうございます。長谷理事長を筆頭に、素晴らしい一年となるよう個人としても、組織としても、地域に必要とされるよう邁進して参ります。引き続き御指導・御鞭撻をよろしくお願い致します。



副理事長 山口 卓平

新年明けましておめでとうございます。本年度副理事長を務めさせて頂く、山口卓平と申します。2023年度は長谷理事長の元メンバー一同一丸となり調布の町に貢献できるよう頑張りたいと考えています。よろしくお願い致します。



直前理事長 柏谷 洋亮

新年おめでとうございます。2022年度は理事長として一年間大変お世話になりました。本年度は、直前理事長として長谷理事長を第一サポート出来るよう頑張ります。単年度での青年会議所も「円麻呂」がしごとと出れば、その活動は毎年再発展の一歩を通過し、自分自身これまで17歳青年会議所活動で経験した事、学んだ事を引き継ぎ、発展させられる一年に出来たいと思います。皆様、本年もどうぞ宜しくお願い致します。



専務室ライブ専務員 専務理事 山城 拓也

新年明けましておめでとうございます。2023年度は専務理事を務めさせていただきます。自分も強く、調布青年会議所も強くするために、運動していきたいと思っております。本年度もどうぞよろしくお願い致します。



監事 堀内 信宏

シニア・現役の皆様、あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。新年は、何か新しいこととして、二年任期の二年目となります。監事の職務、義務、責任を自覚し、堀内の注意をもって職務に当たる所です。本年もご指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



副理事長 喜多 雄章

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年度は副理事長を務めさせていただきます。まち委員会と青少年委員会を担当します。質問やむねばく相談、その他にも公益事業を行います。どちらの委員会も大変興味がありますので、とも楽しめたいです。早いもので入会して6年目になりました。これからも邁進してまいりますので、本年もご指導御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



専務室ライブ専務員 専務兼財務担当理事 小田 友美

新年おめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。入会して5年目。つい最後の年になりました。昨年に引き続き、副専務として専務をサポートしながら、今年度は財務としても念の運至に誠心誠意尽くしてまいります。本年もご指導御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

11月25日(金)、長谷理事長をはじめ、2023年度の調布青年会議所の核となる正副メンバーが、調布市長である長友貴樹氏を表敬訪問し、お話を伺いました。

【次期調布市総合計画 ~まちづくり市民が参画することについて~】

長谷：私は先日、調布市基本構想市民会議を傍聴させていただいております。調布市の根拠となる次期調布市総合計画についてのお話を伺えたかったです。

市長：ご存じかもしれませんが、我々町村を含む自治体はこれまで、地方自治法という法律に基づいて、年次を定めた計画的な行政を行ってきた、ということ、何ヶ年計画というのを定めてきました。その職務は今もなくなりませんし、けれども多くの町村は現在もこれを計画行政として位置付けています。調布市やそれと、調布市基本計画あたりとして、今年度はその10年計画の最終年度です。だから次つづきなさいかということ、昨年から市民の方にも公募で多大なる力をいただいて、皆さんと我々の職員と一緒には計画の案づくりをしました。お陰様で、市民会議から提案された基本構想案に基づいて具体的な中身が大体出来上がり、まさに来月(2022年12月)の議会に議員の方にてこれを提示して承認をいただきたいところなんです。承認いただければ、ここで基本構想が決まるわけです。

長谷：その特徴や市長の思いなどがあれば教えてくださいませんか？

市長：はい。今度の期間は8年なんです。どういう歩みで8年間、調布が歩んでいくということと、2030年の調布はどうなるんだらうという夢をこの中に盛り込みたいなと思っています。基本計画も構想ができた段階で詰めていかないか。という意見もあると思いますが、これは来年の2月に議員の皆さんに案を提示するというところになっています。

長谷：市民が提案する基本構想に基づいて、市長が調布の未来を思い、基本計画を作っていく、とても面白い気がします。まちづくり市民が参画することについて市長のご意見を教えてください。

市長：ご購入の通り、市民が自分の住む街に思いを込めて基本構想を作り上げてくれたことは、大変、有り難かったです。やはりその思いが強いかなんかです。簡単に言えば、我々市役所とは何ですかと言われたい。今24万人近い市民の皆さんが、例えば現金という名目で行く提出していただいたお金を予算として、その使い道を決めているんです。それのことなんです。それのことなんです。それのことなんです。それらも一つ一つは、皆さん、市のことは気にしても1日中そういうことに携わっている時間ないから、我々は皆さんから委託を受けているようなものです。子育てでも福祉でも。現場側でも案をつくり、それに基づいて予算をつける。だから元々は市民の意見なんです。当然のことなんです。そういう意味ではいつも一緒にやせていただきたいし、今回の計画づくりでは大変お世話になって、いい議論ができたと思って感謝しています。

長谷：その市長の「一緒に」というお言葉が、私には嬉しく響きました。青年会議所は40歳までという限られた時間ではありますが、「明るく豊かな社会のために」運動展開しています。行政の皆様と一緒にまちづくりを進めたいと思っていますので、ぜひよろしくお願い致します。

【理想とする調布のまちの未来像について】

長谷：調布青年会議所のスローガンという言葉がありまして、来年は、「強くあれ」という言葉なんです。「強くあれ」という言葉の中に「自分の信念を堅持しよう」という思いを含めさせてもらっているんです。私は調布で生まれ育ち、もともと調布が好きなんです。メンバーには、調布のまちの発展のために信念をもって運動展開してもらいたいんです。そうすることで、事業に参加した市民や青少年が調布を好きになってくれる。そしてそれが調布のまちの未来に繋がっていくと信じています。

市長：大変大事なことですね。昭和30年に2つの町が合併して調布市になったんですけど、その人口って4万5000人だった。そうすると約20万人近く後から増えた。4万5000人の人口は減らなくなったとは20万人からは後から来たかということになるわけです。私のうちの一人。私は元々は東京の人間ではないです。ですから、そのようやっばり郷土愛というか、調布の良さを認識して、これを守り伝えていくという意識。ものすごく大切ですね。その中に元々古くからの町に住んで貢献いただいた方と、それから先程の市民会議のメンバーを見てもらえばいいんですけど、何かつまらぬ調布に縁ができて、やっぱこのまちで暮らしたいって思ってきたと聞いていただけた人達と、コラボレーションですね。一種の協力を今後とも、ぜひ我々が行政としてそういう環境をより良く作っていかないとと思っています。

【2023年における市政の展望】

長谷：市長の2023年と云えばというような展望何か伺っていますか。

市長：そうですね、一つは先程お話があった基本構想、基本計画がスタートする年度です。令和という5年度から8年間。新たな調布の姿というものを描いて、それをい形でスタート

【2023年における市政の展望】

する年度です。令和でいうと5年度から8年間。新たな調布の姿というものを描いて、それをい形でスタートさせるという年度です。京王線の地下の縦断立交差化がちょうど10年前なんです。地下化を含めて、そのまた10年ぐらい前からまちづくりをやってきました。久しぶりに調布に来た人はみんなびっくりして、何ごの変わりようがすごいからなんだ。素晴らしいも非常に増えたり、嬉しいことです。そういう計画のもとにやられて、今度の8年間の新たな計画に差し掛かるのが来年度です。

調布駅近辺ももちろんそうですけど、布田も国領も変わったよう。そういうようなことを中心にハード面のまちづくりは一層展開し進める年度と考えています。8年間で展開すると、そのハード面のまちづくりのみならず、任んでの方が楽しく、また便利になるようなソフト面のこといろいろ考えていかなきゃいけないです。そういうことを、8年間の最初の年である2023年を分かってやっ項目立てて、皆方がお伝えする年でもあります。

後は当然のことながら、今年からの継続の問題も幾つもありまして、もちろん残念ながらもまだコロナは収束していないですから、これに対して来年は何かを着いた年になってほしいと思います。

それから令和元年、今から3年前、非常に大きなダメージを受けた10月12日の台風19号。あれより以前に避難命令を出したのがつづいたのかという、担当部長が震べたら、昭和30年からないという記録が残っていました。それぐらい大きなことだったんです。ですから、あれから防災と協力して、防災に関してこの3年間必死に頑張ってまいりましたが、その充実を図ると、それは2023年も継続をしたいと思います。

長谷：最近の地球温暖化に伴う異常気象は市民生活に直結する課題にまで発展してしまっていますからね。市民の関心の高い分野だと思います。それ以外に新しく取り組まれる分野などはありますか？

市長：新しいこととしては、まさに総合計画の中にも入っているんだらうけれども、調布のみならずというところもありますけども、例えばデジタル戦略ですよね。デジタル化に進行していく。来年から今年にかけて、外の専門家にも手伝わってもらって、取組が順に進んでいる。来年を元年と位置づけるのかはわかりませんが、総合計画の2023年の項目の中に強く新入っていく。そんなような年にしてほしいです。

他にも一つ加えると、その名詞(市長の名前)がまじまじと入るんですけど、共生。共に生きる社会、これを完成させていこうということがあります。19年のラゾビと2020年といふなら、21年のオリンピックラゾビック、特にパラリンピックを開催したことを一つの契機として障害者の方と障害のある方が共生する、共に生きる。それを計画の中に盛り込んでいきたいと思います。そこについては皆さん方にご意見を伺いたいので、ご協力を求めたいと思いますので、2023年、非常に力を入れる年度です。

長谷：ありがとうございました。JCとして、自分達だけでいいことやらやっても仕方ないと思っています。やはり行政とタイアップして、行政の方向性しっかりと合わせて事業を行いたい。

市長：是非！先ほども申し上げているように、市民の方の考え、思い、これは基本ですからお聞きします。

長谷：ありがとうございます。市長から心強いお言葉いただきましたのでそれを胸に1年間やっていきます。よろしくお願い致します。



※対談の全文はホームページに掲載します。



【初志貫徹】拡大委員会 委員長 村澤 康大

明けましておめでとうございます。2日目の新幹線ですが2023年度は大変お世話になりました。長谷理事長の御指導の下、調布青年会議所を盛り上げる為、この大任を全て委ねさせていただきます。一年を通じて、自分自身も自分自身自身の成長に繋がると信じています。至らぬ点が多々あると思いますがご指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。また2023年度は多くのメンバーが卒業する予定です。是非、諸先輩方の情報提供、お力にもお願い申し上げます。



まちんぐ委員会 委員長 西村 啓佑

新年明けましておめでとうございます。2023年はまちんぐ委員長の委員長に挑戦させていただきます。今年度は専務地地懇親会の開催と、まちの未来を見据えた役割を担わせていただきます。様々な方々と意見交換させていただいたことが、このまちのことをたくさん考える1年にしたいと思っています。本年もご指導御鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



専務室ライブ専務員 事務局 山田 亮平

新年明けましておめでとうございます。この度専務室ライブ専務員の事務局局長を務めさせて頂きます山田亮平です。1年間、活動をサポートしてスムーズに運営のお手伝いをさせて頂きながらしっかりと自立します！



【初志貫徹】拡大委員会 副委員長 中浜 崇之

新年明けましておめでとうございます。入会3年目で、最終年度になります。JC活動が面白いように楽しみなが様々なチャレンジをし邁進していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



悩んで学んで飛び出せ！指導力委員会 副委員長 上田 慎

新年明けましておめでとうございます。昨年度のJC2年目ではありますが、青少年委員副委員長を務めさせていただきます。事業に気づかされた沢山「若者」から、そのご活躍が羨ましいメンバーが、調布JCメンバーが、大変うれしく思っています。将来への希望につなげられるよう、まずは自分自身が全力で楽しみ、全力で悩みながら、副委員長に全力で取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



~KIDS ARE OUR FUTURE~ 青少年委員会 副委員長 佐藤 亮彦

新年明けましておめでとうございます。令和五年年度、~Kids Are Future~ 青少年委員会の副委員長を拝命した佐藤亮彦です。入会五年目にして初めて理事を務めることになりました。子どもたちの健康やかたち成長のため、真摯に事業に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



まちんぐ委員会 副委員長 小室 七夫

入会2年目、まち副委員長を務めさせていただきます。JCで組織づくりを学ばないといけない。2022の経験、2023は自分自身創り出したい。事業展開に向けて、一緒に出た委員長メンバーと各委員を統率する責任を第一にしたいと思います。限られた時間を共有する中で相互に影響しあえる関係、そのために、まちんぐ委員とユニークな取り組みを推進していきます。シニアの皆さんにも、ゲストとしてぜひ、ご参加頂きたいと思っております。



専務室ライブ専務員 事務局 嶋田 健人

新年明けましておめでとうございます。専務室ライブ専務員の事務局局長を務めさせていただきます。調布青年会議所活動において各委員会に必要とされる事務局員を目指した運営を全力で取り組んでまいります。また最後まで業務を承継するように、JC活動を邁進していくので1年間どうぞ宜しくお願い致します。



~KIDS ARE OUR FUTURE~ 青少年委員会 副委員長 柏谷 太郎

新年明けましておめでとうございます。昨年度のJC2年目ではありますが、青少年委員副委員長を務めさせていただきます。事業に気づかされた沢山「若者」から、そのご活躍が羨ましいメンバーが、調布JCメンバーが、大変うれしく思っています。将来への希望につなげられるよう、まずは自分自身が全力で楽しみ、全力で悩みながら、副委員長に全力で取り組んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。